

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 393

1989. 5. 11

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. 利用負担金の一部改正及び利用通知書の廃止について	1
2. PFD/PFDEのサブコマンド (RSAS, RTEX, RLATEX, RCC, DSPRINT, LIST) の公開について	2
3. MSPにおけるEBCDICコード系のデフォルト値の変更について	7
4. PFD, PFDEのHISTORY機能の強化について	10
5. 「計算機科学研究報告」第6号の発行について	11
6. UTS利用講習会の開催について	11
7. 文献情報検索講習会の開催について	12

1. 利用負担金の一部改正及び利用通知書の廃止について

先般、各利用者の方へ「利用負担金の取扱い変更について」でお知らせしましたとおり、本年4月1日から下表のとおり負担金規程の一部が改正され、「各区分共通負担金」の項が加わることになりました。

この「各区分共通負担金」に円未満の端数を生じた場合は切捨、その額と利用負担金額を合算した額に100円未満の端数が生じたときは切上げとなります。

また、支払責任者宛に送付していましたが「九州大学大型計算機センター利用通知書」は廃止することになりました。なお、利用負担金額及びその詳細は、TSSコマンド又はカタログドプロシジャの「CHARGE」をご利用ください。前月までの累計金額及び現在までの使用金額を表示します。

利用負担金表（平成元年4月1日）

区 分		負担金の算定基準	
基本負担金		1件につき ただし、センター内入出力装置を使用した場合に限る	40円
演算負担金		1件のcpu時間（1秒未満は1秒に切り上げる。）が 5分までは1秒につき 5分を超え15分までは1秒につき 15分を超える場合は超える部分 1秒につき	5円 3円 1円
入出力負担金	プリンタ出力	1枚につき 100図形文字パターンにつき	4円 1円
	XYプロッタ出力	4,000ステップにつき 10センチメートルにつき	1円 3円
	ファイルアクセス	100回につき	1円
	端末接続	1分につき ただし、センター内端末利用の場合は 1分につき	1円 2円
	ディスク	200キロバイトにつき1日	1円
	マストレージ	100メガバイトにつき1月	2,000円
各区分共通負担金		各区分に従い算出した利用負担金額を月ごとに集計した合計額に百分の三を乗じて得た額	
備考			
<p>1 利用負担金請求額に百円未満の端数が生じた場合は、これを百円に切り上げるものとする</p> <p>2 基本負担金に係るセンター内出力装置は、次のとおりとする ラインプリンタ、カードリーダー、磁気テープ装置、XYプロッタ、グラフィックディスプレイ装置、ハードコピー装置、フロッピーディスク装置</p>			

（第一業務掛 電（内）2517）

2. PFD/PFDEのサブコマンド（RSAS, RTEX, RLATEX, RCC, DSPRINT, LIST）の公開について

5月1日（月）より、PFDのBROWSEおよびEDIT画面から直接下記のコマンドを使用することにより、SAS, TeX, LaTeX, Cの編集時のデータセットを保存することなく、実行できるようになりました。また、DSPRINTコマンド、LISTコマンドについてもPFDのBROWSE, EDITから直接使用できるようになりました。以下に各コマンドの使用方法について説明します。

1. RSAS PFDのBROWSE, EDITにおいて, SAS環境の設定とSASプログラムを実行する.

入力形式

```
RSAS  [LOUT ( {OPR | NLP | データセット名} ) ]  
      [POUT ( {OPR | NLP | データセット名} ) ]  
      [GOUT ( {OPR | NLP | データセット名} ) ]  
      [OPTIONS ( オプションリスト ) ]  
      [LINE ( {行番号 | 始行番号 : 終行番号} ) ]  
      [MACRO ( データセット名 ) ]  
      [FORMAT ( データセット名 ) ]  
      [NLP ( 出力クラス ) ]  
      [OPR ( OPR機番 ) ]  
      [USER ( DD名 ) ]  
      [TRACE ]
```

オペランドの説明

LOUT ({OPR | NLP | データセット名}) : SASログの出力先を指定する。OPRを指定すると、OPRオペランドで指定されたOPRから出力され、NLPを指定すると、NLPオペランドで指定された出力クラスから出力される。データセット名を指定すると、そのデータセットへ出力される。省略時は端末へ出力される。

POUT ({OPR | NLP | データセット名}) : SASプロシジャ出力の出力先を指定する。

GOUT ({OPR | NLP | データセット名}) : SAS / GRAPHの出力先を指定する。

OPTIONS (オプションリスト) : SASオプションを指定する。SASオプションの詳細については、「SAS User's Guide Basics(2)日本語版」を参照。ただし、次のオプションは指定できない。USER, WORK, SYSIN, UNIT

LINE ({行番号 | 始行番号 : 終行番号}) : BROWSE, またはEDITで使用中のデータセットのSASによる実行範囲を行番号で指定する。

MACRO (データセット名) : SASマクロライブラリのデータセット名を指定する。

FORMAT (データセット名) : SAS FORMAT用のデータセットを指定する。DD名はSASLIBとなることに注意する。省略時は、セッションで最初に呼ばれた時のみ、作業用データセットをDD名SASLIBで定義する。FORMATを定義する時には、次のように指定する。

```
PROC FORMAT DDNAME=SASLIB
```

NLP (出力クラス) : SASログ, SASプロシジャ出力, SAS / GRAP

H 出力を NLP に出力する時の出力クラスを指定する。省略時は O となる。
OPR (OPR 機番) : SAS ログ, SAS プロシジャ出力, SAS / GRAP
H 出力を OPR に出力する時の OPR 機番を指定する。

USER (DD 名) : DD 名を省略できる SAS データセットの DD 名を指定する。ただし, DD 名 SASWORK を指定してはならない。普通 SAS データは DD 名.SAS データ名で指定する。しかし, SAS データがこのオペランドで指定したデータセットに存在する場合は, DD 名を省略し単純名を使用することができる。省略時は, DD 名を SASWORK とし, セッションで最初に呼ばれた時はこの DD 名に十分な容量の作業用データセットを割り当てる。

TRACE : コマンド実行のトレースをとることを指定する。

2. RTEX PFD の BROWSE, EDIT において, TEX プロセッサを呼び出して TEX テキストを実行する。

入力形式

```
RTEX [STEP ( {A | B | C | D | E | F} ) ]  
      [ {A4 | B4} ]  
      [DEVICE (出力装置名) ]  
      [PRINTNAME (出力先) ]  
      [PAGE ( '開始頁 最大枚数' ) ]  
      [MAGNIFICATION (n) ]  
      [ {ZOOM | NOZOOM} ]  
      [CUT {0 | 1 | 2} ]  
      [DVIFILE (データセット名) ]  
      [OUTFILE (データセット名) ]  
      [ {PORTRAIT | LANDSCAPE} ]  
      [COPY (複写枚数) ]
```

オペランドの説明

STEP

起動する STEP のタイプを指定する。

- A : INITeX のみを起動。
- B : DVIWRITE のみを起動。
- C : PRINTOUT のみを起動。
- D : INITeX + DVIWRITE を起動。
- E : DVIWRITE + PRINTOUT を起動。
- F : 全ての処理を行う。デフォルトは F。

A 4 | B 4

出力用紙のサイズを指定する。デフォルトはA 4。

DEVICE

出力装置名を指定する。省略した場合、端末に問い合せてくる。

NLPE2 : NLPに出力する。

OPR2 : OPRに出力する。

VDS : VDS 端末に表示する。

PRINTNAME

出力先を指定する。省略した場合、端末に問い合せてくる。

O (クローズド出力), U (オープン出力) : NLPに出力する。

OPRの装置番号 : OPRに出力する。

PAGE

出力開始ページと出力ページ枚数を指定する。

デフォルトは*と1000000。

MAGNIFICATION

出力の拡大率を指定する。デフォルトは1250。拡大率は $1.2^n \times 1250$
($n=0, 0.5, 1, 2, 3, 4, 5, 6$)の場合が有効である。

ZOOM | NOZOOM

縮刷の指定。ZOOMを指定すると、出力用紙の大きさに関係なくA 4サイズの出力が得られ、NOZOOMを指定するとB 4サイズの出力が得られる。デフォルトはZOOM。

CUT

カットマークの指定 (B 4 指定の時有効)

0 : カットマークを出力しない。デフォルトは0。

1 : A 4 サイズのカットマークを出力する。

2 : 国際A 4 サイズのカットマークを出力する。

DVI FILE

DVIファイルを保存する時指定する。デフォルトは@TEX。DVIで、実行後削除される。

OUTFILE

出力用のデータセットを保存する時指定する。デフォルトは@TEX。OUTVECで、実行後削除される。

PORTRAIT | LANDSCAPE

出力用紙の方向を指定する。(OPR出力の時のみ有効)

デフォルトはPORTRAIT。

COPY

出力する部数を指定する。デフォルトは1。上限は255。

3. RLATEX PFDのBROWSE, EDITにおいて, TEXプロセッサを呼び出してLATEXテキストを実行する.

入力形式

RLATEX [オペランドはRTEXと同じ.]

4. RCC PFDのBROWSE, EDITにおいて, Cコンパイラを呼び出してCプログラムを実行する.

入力形式

RCC [OPTION (Cのコンパイラオプション)]
[PARM (実行時のパラメタ)]

オペランドの説明

OPTION

Cのコンパイラオプションを指定する.

PARM

プログラム実行時に渡すパラメタを指定する.

使用例

RCC OPTION ('-NN')
行番号付きプログラムを実行する.

5. DSPRINT PFDのBROWSE, EDITにおいてデータセットの内容をハードコピー装置に出力する.

入力形式

DSPRINT プリント名

オペランドの説明

プリント名: ハードコピー装置の機番を指定する.

その他のオペランド: 下記マニュアル参照.

FACOM OS IV/F4 データセットプリント使用手引書
(78SP-3313-2)

6. LIST PFDのBROWSE, EDITにおいて, データセットの内容をNLPに出力する.

入力形式

LIST {A|O|S|K|U|H}

オペランドの説明

NLP の出力クラスを指定する。省略した場合は端末に出力される。

センタークローズドNLP出力

- A, O: 英数字, 漢字, 図形出力
- S: 英数字, 漢字, 英小文字, 図形出力
- K: 英数字, 漢字, カナ文字, 図形出力

センターオープンNLP出力

- U: 英数字, 英小文字, 漢字, カナ文字, 図形出力

センタークローズド高速NLP出力

- H: 英数字, 漢字, 英小文字,

使用例

LIST U

(ライブラリ室 電(内) 2518)

3. MSPにおけるEBCDICコード系のデフォルト値の変更について

平成元年7月17日(月)より, MSPにおけるEBCDICコード系のデフォルト値を現行のもの(表1)から International EBCDIC コード系(表2)に変更します。

表1 現行のEBCDICコード系

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0					SP	&	-						{	}	\	0
1							/		a	j	~		A	J		1
2									b	k	s		B	K	S	2
3									c	l	t		C	L	T	3
4									d	m	u		D	M	U	4
5									e	n	v		E	N	V	5
6									f	o	w		F	O	W	6
7									g	p	x		G	P	X	7
8									h	q	y		H	Q	Y	8
9								`	i	r	z		I	R	Z	9
A						!		:								
B					.	\$,	#								
C					<	*	%	@								
D					()	_	'			[]				
E					+	;	>	=								
F						^	?	"								

表2 International EBCDIC コード系

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	
0					SP	&	-						{	}	\	0	
1							/		a	j	~		A	J		1	
2									b	k	s		B	K	S	2	
3									c	l	t		C	L	T	3	
4									d	m	u		D	M	U	4	
5									e	n	v		E	N	V	5	
6									f	o	w		F	O	W	6	
7									g	p	x		G	P	X	7	
8									h	q	y		H	Q	Y	8	
9									~	i	r	z		I	R	Z	9
A					[]		:									
B					.	\$,	#									
C					<	*	%	@									
D					()	_	'									
E					+	;	>	=									
F					!	^	?	"									

コード系の変更に際しては、できるだけユーザがコード系の変更を意識しないで済むよう配慮しますが、特に以下の点にご注意下さい。なお、コード系の詳細については [1] を参照下さい。

- (1) NVTCODE, @CODE, SETCODE コマンドのオペランドのデフォルト値を表3の下線“_”から網掛け“~~STANDARD~~”に変更します [3]。

表3

コマンド	オペランド
NVTCODE	STANDARD { ALPHA KANA ASCII } EXTENDED { ALPHA KANA } <u>USER</u> { ALPHA KANA ASCII } [LIST]
NVTサーバが使用するコード 交換表の設定	
@CODE	STANDARD { ALPHA KANA ASCII } EXTENDED { ALPHA KANA } <u>USER</u> { ALPHA KANA ASCII } [LIST]
NVTユーザが使用するコード 交換表の設定	

コマンド	オペランド
SETCODE	[INTERNAL ({ STANDARD ALPHA EXTENDED KANA })]
TTY端末が使用するコード変換表の設定	[DEVICE ({ ASCII JIS JISCII USASCII })] [LIST]

- (2) FORTRANを使う場合には、いかなる端末・通信回線であってもこの変更によって影響は受けません。
- (3) センターあるいは端末分室に設置してある専用端末 (F6682 (NDS), F6683 (VDS) など) を使用する場合、コード系のデフォルト値変更の影響は全くありません。
- (4) 今回の変更はコード系のデフォルト値 (標準値) を変えるだけであり、必要ならば上記のコマンドでコード系を切り換え、現行のコード系を使用することができます。
- (5) C言語, PROLOG, TEXなどアスキーベースの言語を使用するとき必要だったコマンドプロシジャ「PFDA」は、新コード系では不要になるので廃止します [2]。
- (6) PL/IおよびCLISTのユーザは、TTY回線及びN1ネットワーク経由で「|」 (logical or)を入力するとき、「|」キーではなく、「!」キーを使わなければなりません。なお、センターや端末分室の専用端末 (F6683など) を使うときにはこの必要はありません。また、TTY回線で旧コード系を使う場合には、
SETCODE INTERNAL(STANDARD ALPHA) D(ASCII)
%TABLE
と入力します。
- (7) PL/IおよびCLISTのソースプログラムをNLPに出力する場合
%LIST データセット名
と入力し、それ以外の旧コード系で作成したテキストファイルを出力する場合は
%LIST データセット名 UCS(LC10) 10 は文字サイズ
と入力します。
- (8) コマンド区切り記号のデフォルト値として現在「!」を採用していますが、コード系のデフォルト値の変更に合わせて「;」に変更します。これ以外の区切り記号が必要なときはSTREAMコマンドを使って変更して下さい。
- (9) TTY端末およびN1ネットワーク経由でPFD/PFDEを起動する場合
PFD TTYTYPE TTYCODE(EBCDIC) TERMLANG(E) 英数のみ
PFDE TTYTYPE TTYCODE(EBCDIC) TERMLANG(E) 英数のみ
PFD TTYTYPE TTYCODE(EBCDIC) 日本語
PFDE TTYTYPE TTYCODE(EBCDIC) 日本語
のいずれかを入力します。
- (10) 表1と表2の比較からもわかるように、旧コード系と新コード系では下の表4に示した

4文字が異なります。したがって、旧コード系においてTTY端末（パソコン端末など）で作成したテキストファイルは、新コード系で使用するためには変換しなければなりません。この変換はTXTCONV コマンドにより

TXTCONV 旧コード系データセット名 新コード系データセット名
として実行します。

表4

TTY	旧コード系	新コード系
7C	4F	6A
! 2I	5A !	4F !
[5B	AD [4A [
] AD	BD]	5A]

1. 松尾文碩：「ASCII と EBCDIC」，九大大型計算機センター広報，20.4.1987.293-304
2. 二村洋一，他：「C言語の使用法」，九大大型計算機センター広報，20.4.1987.308-318
3. 九大大型計算機センター：「利用の手引（ネットワーク編）」，1987，39-44

（ネットワーク室 電（内）2517）

4. PFD, PFDEのHISTORY機能の強化について

5月1日（月）から、標記機能の提供を行っています。これにより、PFD（PFDE）配下で以前実行したコマンドを複数回まとめて再表示、修正及び再実行することが可能です。入力形式は以下のとおりです。

入力形式

コマンド	オペランド
CMDLOG	[ALL]

【機能】

CMDLOG ALLと入力することにより、それまでに入力されたコマンドが古い順にコマンドログメニューに表示される。修正、再実行したいコマンドの前に" S "を入力し（複数個選択可能）、そのコマンド行の必要な箇所を修正した後、エンターキーを押下することで連続再実行が可能となる。なお、CMDLOG ALLをPFキーに割当ておくことにより、コマンドログメニューを簡単に呼び出すことができます。従来のコマンドログの機能は、そのまま使用できます。

【コマンドログメニュー表示例】

-----< コマンド ログ >-----
コマンド ===>
実行するコマンドの左端に 'S' と入力してください。

```
RES  
/FREE F(FT06F001)  
S      ALLOC F(FT06F001) DA(PK,DATA) SHR REU  
      WHO  
      /LIST EXAM1.DATA NON  
      LISTA ST  
      LISTC  
S      LISTD SPYLEG.FORT77 H SP  
*** 終り ***
```

- 上記は、二つのコマンド行を選択し、それぞれの下線部を修正して
順次実行する例である。

〔参考文献〕

1. FACOM OSV/F4 MSP PFD使用手引書 プログラム開発機能編
(78SP-3101-4)
(ライブラリ室(電)内線2508)

5. 「計算機科学研究報告」第6号の発行について

昭和63年11月24日に開催された計算機科学研究集会の講演を論文集に
まとめ、「計算機科学研究報告」第6号として刊行しました。御希望の方は共
同利用掛(電話(内線)2515)までお申し出ください。

6. UTS利用講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたします。受講希望者は、共同利用掛(電(内)2505)
にお申し込みください。

記

- ・日 時 5月25日(木) 10時~12時
- ・受付時間 9時30分 ~ 9時50分
- ・対 象 UNIX利用経験者
- ・募集人員 40名
- ・内 容 UTS(富士通社製のUNIXオペレーティングシステム)のもとで使用可
能な各種ソフトウェアの利用法の説明及び実演

- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室（3階）
- ・講 師 研究開発部 竹生 政資，第二業務掛 河津 秀利
- ・テキスト センターで用意
- ・申し込み期間 5月15日（月）～ 19日（金）
（なお、募集定員に達し次第締め切ります。）

7. 文献情報検索講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたします。受講希望者は、共同利用掛（電（内）2505）にお申し込みください。

記

- ・日 時 5月30日（火） 10時～16時
- ・受付時間 9時30分～9時50分
- ・対 象 初心者
- ・募集人員 30名
- ・内 容 情報検索システムAIRによるINSPECデータベース（物理学，電気・電子工学，計算機科学，制御工学，情報工学関係の文献データベース）及び，JICSTJデータベース（情報工学関係の和文二次文献データベース），RAMBIOSデータベース（分子生物学関係のレビュー文献データベース）の検索法。
- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室（3階）
- ・講 師 第二業務掛 河津 秀利
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割 10:00 12:00 13:30 16:00

検索法の説明	昼 休 み	実 習
--------	-------------	-----

- ・申し込み期間 5月15日（月）～19日（金）
（なお、募集人員に達し次第締め切ります。）